教　育　研　究　業　績　書

2025年　5月　1日

氏名　星　　信　子

研究分野	研究内容のキーワード
1．心理学	1）教育心理学

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）「保育の心理学」「発達心理学」、「発達心理学Ⅰ・Ⅱ」及び「児童心理学」の学生教育指導（札幌大谷大学短期大学部保育科教授・准教授）（浅井学園大学短期大学部こども学科助教授（平成19年3月まで））	平成13年4月～現在	発達心理学の基礎的な知識を習得することが主たる目的であるが、心理学的な考え方や子どもの発達をとらえるために必要な視点・方法などについても理解させるよう努めている。講義の際には毎回詳細な資料を用意し、常に新しい研究成果に基づいたデータや事例を提供するとともに、市販の視聴覚教材に加えて、教員自身の研究事例や実験場面の独自のビデオ教材を使用し、理解の助けとなるよう工夫している。さらに、大人数の講義での学生との意見交換のために提案された大幅帳形式を取り入れ、学生からの質問や意見に個別に対応している。
2）「保育内容人間関係」「幼児と人間関係」の学生教育指導（札幌大谷大学短期大学部保育科准教授）（帯広大谷短期大学非常勤講師（平成24年から26年まで））	平成19年4月～現在	幼稚園・保育所における保育内容の5領域の一つ「人間関係」に関する基本的な考え方、子どもの対人関係の発達やそれに対する保育者の援助について学習することが主たる目的である。保育内容の考え方や保育者の援助に関しては、事例を多く取り入れる中で、保育者養成の教科書を分担執筆した経験等を活かし、基礎的な知識をきちんと習得させることに力を入れている。 また、個別に取り組む各種演習課題に加え、指導案を作成しての模擬授業や、学習成果を発表する場を設け、学生が相互に学びあう機会としている。
3）「発達心理学特論Ⅰ・Ⅱ」の学生教育指導（札幌大谷大学短期大学部教授・准教授）	平成19年4月～現在	専攻科保育専攻の科目である。発達心理学の基礎的学習を終えた学生が、さらに研究領域・方法について理解を深めるために、実際の研究に触れることが内容の中心である。Ⅰでは、様々な論文を読み討論を行い、Ⅱでは様々な研究法を実際に体験し、レポートの作成を行う。心理学的な知識をしっかりと持ち、保育の実践の出発点とも言われる子ども理解に各自が役立てることを目的としている。
4）「人間関係発達論」「保育人間関係特論」の学生教育指導（札幌大谷大学短期大学部教授・准教授）	平成19年4月～現在	専攻科保育専攻の科目である。前半は、生涯に渡る人間関係の発達について論じ、後半では愛着の発達に焦点を絞って詳しく学習するという内容である。すでに人間関係の発達についての基本的な知識を習得している学生が対象であるので、知識を深めるだけではなく、授業の中での討論を通じて、個々の学生が自分なりの考え方を検証する過程を大切にしている。
5）「保育内容言葉」及び「子どもの言葉指導法」又は「幼児の言葉」の学生教育指導（北海道教育大学非常勤講師）（北海道浅井学園大学短期大学部初等教育学科専任講師及び浅井学園大学短期大学部助教授（平成19年3月まで））	平成11年4月～現在	幼稚園・保育所における保育内容の5領域の一つ「言葉」に関する基本的な考え方、子どもの言語発達やそれに対する保育者の援助について学習することが主たる目的である。乳幼児期の子どもたちの言語発達を支える保育者の援助について考えるための基礎的事項として、乳幼児期の言語発達の理解について、特に自身の専門的研究を活かした講義・演習内容とするよう努めている。また、保育実践に向けてパネルシアターの作成を取り入れ、受講者全員が作品を仕上げて発表する機会を設けている。

事　　項	年月日	概　　要
6）「修了研究」「基礎ゼミナール」「総合演習」「ゼミナール」の学生教育指導（札幌大谷大学短期大学部保育科教授・准教授）（北海道浅井学園大学短期大学部初等教育学科専任講師及び助教授（平成19年3月まで））	平成11年4月～現在（途中中断あり）	学生の各自の関心に応じて目的を定め、具体的な研究活動に基づいた成果を一定のレポートにまとめることが目的である。特に研究目的設定の段階では学生の関心が漠然としたものであることも多く、具体的に実行可能な内容までつめていくプロセスを重視している。可能な限り科学論文としての体裁を備えた報告を作成することを目標として取り組むよう、指導している。
7）「保育の心理学Ⅱ」の学生教育指導（札幌大谷大学短期大学部保育科教授）	平成24年4月～2020年3月	人間の発達や学習に関わる様々な基礎理論を概観しつつ、子どもの生活や遊びの中での学習過程とその発達の様相、さらには発達の段階や課題に応じた援助やかかわりについて考えていくオムニバスの演習である。担当部分の内容は、保育実践における子ども理解の重要性と、子ども理解に基づく援助を行うための様々な視点や具体的方法を学び、実際の援助について考えるというものである。各種測定などを実際に行う中で、各自の体験に基づき理解を深める事ができるよう配慮している。
8）「子ども家庭支援の心理学」の学生教育指導（札幌大谷大学短期大学部保育科教授）	2019年4月～現在	子どもや家族に関わる以下の様々な現代の諸問題について、心理学的な視点から学ぶオムニバス科目である。担当部分では、主に生涯発達の視点と初期経験の重要性、子どもの精神保健に関わる内容を扱っている。本科2年生後期の科目であり、今まで様々な科目で扱ってきた内容を心理学の視点から学びなおすことで、個々の学生の子どもや家庭についての知識や考え方を整理し、実践に結び付けることができるよう援助している。
9）「子どもの理解と援助」の学生教育指導（札幌大谷大学短期大学部保育科教授）	2021年4月～現在	子どもの理解に必要な知識、考え方や基本的態度について理解を深めると同時に、発達を援助する具体的な方法を考える力を身につけることを目的とした科目である。幼稚園教諭経験者の本学教員を兼担としているだけではなく、様々な現場の現職保育者をゲストスピーカーとして招き、幼児の生活や遊びの様子、幼児理解の実際と援助等に関する現場の実践例を紹介していただくとともに、グループ討論を行うことで、幼児理解の意義や方法について学生個々の理解を深めることができるよう配慮している。
2　作成した教科書，教材 1）「子どもの育ちを支える発達心理学」 第8章　自己と感情の発達	平成25年1月	保育養成機関における発達心理学のテキストの一部を分担執筆したものである。第8章は乳幼児の自己と感情の発達について述べた章である。子どもの精神発達の最も基本的なものの一つである自己の形成について、自己への気づきから児童期までの自己認識の発達、自己制御の発達について述べるとともに、感情表出、感情的知性の発達についても解説している。 編者：髙櫻彩子、請川滋大　著者：請川滋大　結城孝治他
2）その他		各講義において進行に併せて独自の講義資料を提示すると共に、心理学実験場面を撮影したビデオ教材などを作成している。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		当該教員は、これまでの乳幼児期の情動発達や母子関係の発達に関する各種縦断研究に継続的に深く従事し，多くの論文を発表し、その成果は内外に高く評価されている。現在本学において，「発達心理学」「人間関係発達論」「保育内容の人間関係」等を担当し、これら講義・演習などにおいて、教材の工夫や具体的な機器の活用など，指導効果を高め，学生の評価も高く，教員として優れた実践を展開している。以上研究上の実績並びに教育歴から、担当科目を教授する資質を十分に有すると評価する。
4　実務の経験を有する者についての特記事項 1）講演 「赤ちゃんと人とのかかわり」	平成22年10月	日本音楽療法学会北海道支部　第18回研修会 北方圏学術情報センター　ポルト

事　　項	年月日	概　　要
2）講師 「こどもの変化についての理解」	平成23年12月 平成24年7月 平成25年7月	平成23・24・25年度教員免許更新講習必修A 札幌ガーデンパレス
3）講演 「赤ちゃんの世界」	平成25年11月	札幌大谷大学公開講座
4）講師 「赤ちゃんの世界」	平成26年7月	第63回北海道高等学校家庭科教育研究協議会保育セミナー
5）講師 「乳児期の発達と支援のあり方」	平成29年11月 平成30年8・10月、2019年8・12月、2020年10月	北海道社会福祉協議会主催乳児保育担当保育士等研修
6）講師 「幼児の発達に応じた保育内容」	2019年8月	札幌市私立保育園連盟主催保育士等キャリアアップ研修
7）講師 「保育の中での援助と関わり」	2021・2022年	北海道教育大学札幌校教員免許状更新講習（オンライン実施）
8）講師 「愛着の発達」	2023年8月	小樽地方私立幼稚園連合会教職員研修会
9）講師 「幼児の発達に応じた保育内容」	2025年1月	札幌市私立保育園連盟主催保育士等キャリアアップ研修
5　その他		

職　務　上　の　実　績　に　関　す　る　事　項

事　　項	年月日	概　　要
1　資格，免許	昭和61年3月 昭和61年3月 平成7年3月 平成12年10月	中学校教諭一種免許状（社会） 高等学校教諭二種免許状（社会） 養護学校教諭二種免許状 学会連合資格「学校心理士」 （学会連合資格「学校心理士」認定運営機構）
2　特許等		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
4　その他		

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 1.「子どもの育ちを支える発達心理学」8章自己と感情の発達	共著	平成25年1月	朝倉書店	（前掲書）
（学術論文） 1.成人用気質質問紙（ATQ）の心理測定的性質の予備的検討	共著	平成24年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要第42号	成人用気質質問紙であるATQの心理測定的性質の検討を行うための基礎的なデータを提供することを目的とし、信頼性の検討・2グループのデータの比較・性差の検討を行った。 著者：星信子・草薙恵美子 掲載頁：57-63 担当部分：全体統括、信頼性分析及び1グループデータの収集を担当した。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（学術論文） ２．子どもの気質発達についての学際的研究－予備調査結果をふまえて－	共著	平成26年3月	國學院大學北海道短期大学部紀要第31号	幼児の気質発達を規定する諸要因について検討するプロジェクトの研究計画、及び予備調査結果についての報告である。母親の気質的特性と養育態度との間には関連がみられ、さらに子どもの気質に影響している可能性が示唆された。 著者：草薙恵美子、星信子、陳省仁、安達真由美、高村仁知、大石正 掲載頁：11-27 担当部分：主に質問紙調査の実施、分析などを担当した。
３．The development of child temperament and the presence of sibling （査読付）	共著	平成26年9月	Proceedings of the 16th European Conference on Developmental Psychology (Lausanne, September 3-7, 2013)	子どもの気質発達における家庭構成員の存在の影響を検討し、多くの家族メンバーと共に生活すること、日本的育児の様式、兄弟の存在等の気質発達への影響が明らかであること、またその様相が男女児で異なるという結果を得た。 著者：Emiko Kusanagi, Nobuko Hoshi, Shing-Jen Chen, Mayumi Adachi, Hitoshi Takamura, and Tadashi Oishi 掲載頁：129-132 担当部分：主に質問紙調査の実施、分析などを担当した。
４．実習事前指導としての指導実習－実習力アップに焦点をあてて－	共著	平成29年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要第47号	学生たちが実習力（実習までに培ってきた技術や理論であり現場で実践する学生レベルの保育力）を高めるには、不安を軽減し意欲を持って実習に臨むことが基になると考えた。実習事前指導であるグループ実習での準備・実践・省察、各段階の様々な場面での刺激や誉められ体験などが意欲、自信に繋がったと振り返りレポートから分析した。今後振り返り、模擬保育などでの子どもの姿を予想することを習慣化し、子どもとの関わりを多様にイメージできることが実習力をさらにアップさせると考察した。 著者：秋山ゆみ子、星信子、大澤亜里、大西道子 掲載頁：pp.107-120 担当部分：主に質問紙調査の実施、分析などを担当した。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（学術論文） ５．子どもを理解し言葉の発達を支える保育者の養成	共著	平成29年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要第47号	「保育内容（言葉）」の授業実践について報告をし、その成果と課題を明らかにしている。学生は、授業を通して子どもの言葉や表情、行動を通して子どもの内面や援助のあり方について考察すること、他者と意見交換をする中で様々な捉え方や考え方に気づくこと、実際の子どもの姿を通して言葉の発達過程を理解することができた。一方で発達過程に応じた言葉の発達の援助については十分に考察できていなかった。 著者：大澤亜里、星信子、秋山ゆみ子 掲載頁：pp.121-127 担当部分：主に学生の記録及び授業の振り返りレポートの分析、検討を担当した。
６．Children’s Hair Mercury Concentrations and Seafood Consumption in Five Regions of Japan （査読付）	共著	平成30年1月	Archives of Environmental Contamination and Toxicology (2018) 74	今までほとんど研究がなされてこなかった、日本の幼児期のメチル水銀曝露について5つの地域の3～6歳の118人を対象に調査し、魚介類消費の地域差等との関連について検討した。約40％の子どものメチル水銀の毛髪中の濃度がユナイテッド州環境保護局の勧告値を超えていた。また、毛髪中のメチル水銀濃度には有意な地域差が見られ、伝統的な脂肪魚を食べるパターン、特にマグロの消費の影響が見られた。 著者：Emiko Kusanagi, Hitoshi Takamura, Shin-Jen Chen, Mayumi Adachi, Nobuko Hoshi 掲載頁：pp.259-272 担当部分：主に質問紙調査の実施、分析などを担当した。
７．子どもの人間関係の育ちを支える保育者の働きかけ　－保育者養成課程に在学する学生の実習中の気づきから－	共著	平成30年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要第48号	保育者養成課程に在学する学生213名が実習中にとらえた保育者の働きかけを分類することで、子どもの人間関係の育ちを支える保育者の働きかけの実際について検討した結果、保育者の働きかけは、対象とする子どもの年齢に応じて、子どもの拠り所となるものから、子ども達の自律的な共同を見守るものまで、段階的に変化していた。また、その内容は非常に多岐に渡り、保育内容の領域「人間関係」の内容をほぼ網羅していた。さらに、幼稚園と保育所の保育者では、力を入れている内容が異なっている可能性が示唆された。 著者：星信子、秋山ゆみ子、大澤亜里 掲載頁：pp.81-89 担当部分：全体統括、データ収集、分析を担当した。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（学術論文） ８．日本語版「児童期中期における気質質問紙（TMCQ）」の心理測定的性質	共著	2020年3月31日	札幌医科大学医療人育成センター紀要、11号	この研究の目的は、日本語版「児童期中期における気質質問紙（TMCQ）」の信頼性と因子構造を明らかにすることである。内的整合性は“弱い刺激への快”を除いて適切であり、主成分分析によって、ロスバートの気質のモデルと一致する３つの主成分が得られた。 著者；高橋義信、草薙恵美子、星信子 掲載頁：pp.1-4 担当部分：主に質問紙調査の実施、分析などを担当した。
９．幼児期気質質問紙36項目日本語版（CBQ-36-J）作成の試み	共著	2021年1月31日	名古屋市立大学大学院人間文化研究科人間文化研究，35	本研究の目的は、幼児期気質質問紙36項目日本語版（CBQ-36-J）を作成し、日本における今後の気質研究に資することである。草薙・星（2017）がCBQ日本語短縮版を作成する際に調査した3歳から6歳児の837名のデータを二次分析した。その結果、作成した3つの気質次元を測定するCBQ-36-J は、十分な内的整合性があることが示された。また回顧的妥当性の検討においても、CBQ-36-JとIBQ-R 日本版、ECBQ 日本版で測定される3つの気質次元との間に高い相関が認められ、CBQ-36-J の有用性が示された。 著者：成瀬 茉里香・草薙 恵美子・星 信子・中川 敦子・鋤柄 増根 掲載頁：pp.71-84. 担当部分：CBQ日本語短縮版の作成と実施
10. Levels of Toxic and Essential Elements and Associated Factors in the Hair of Japanese Young Children（査読付）	共著	2023年1月9日	International Journal of Environmental Research and Public Health, 20, 1186.	118人の日本人幼児の毛髪中の複数の元素濃度と、それらの元素レベルに関連する要因を調査した。日本の幼児の毛髪中の元素レベルは、他の先進国の幼児との間に大きな差は見られなかった。女児はアルミニウム、銅、鉄のレベルが有意に高く、男児はナトリウムのレベルが高かった。保育園児のカルシウム、鉄、マグネシウム、およびナトリウムのレベルは、幼稚園児のそれらよりも有意に高かった。また、重回帰分析によると、ヨーグルトの摂取頻度とアルミニウムおよび鉛のレベルとの間に有意な負の関連が示された。 著者：Kusanagi, E., Takamura, H., Hoshi, N., Chen, S.-J., and Adachi, M. 掲載頁：オンライン掲載 担当部分：主に質問紙調査の実施、分析などを担当した。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（学術論文） 11. 保育実習準備室の有効活用に向けた学生への意識調査　―実践に結びつく主体的な学びの場についての考察―	共著	2024年3月7日	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要54号	本学の保育実習準備室に対する学生の意識調査を実施し、それを基に、今後の保育実習準備室の発展に向けて考察したものである。意識調査の結果、実習経験数により実習準備のために意識することが異なるという結果が得られた。保育実習準備室の利用は、実習先の情報収集や教材・備品の活用が主であった。しかし、書籍からの情報収集や特定の備品の活用度は低かった。学生の利用する目的や実習に向かう考えに応じて保育実習準備室の物品を有効活用できるよう、さらに主体的な学びの場となるような環境構成の工夫が必要であると考えられる。 著者：清和友美、森川由依、星信子 掲載頁：オンライン掲載 担当部分：研究計画から調査実施、データ分析など全般にわたって参加した。
（その他） （学会発表） 1．乳児の泣きに対する母親の反応－生後1年間の縦断的な記録から－	共著	平成22年3月	日本発達心理学会第21回大会発表論文集	生後1年間の母子相互作用を家庭内で縦断的に観察した結果から、母親の泣きに対する対応（原因の推測、泣きへの感情など）の変化について報告した。 著者：星信子・陳省仁・氏家達夫 掲載頁：271 担当部分：研究計画から調査実施、データ分析など全般にわたって参加した。
2．子どもと母親の気質と生活―母親の気質に関連する諸要因についての予備的検討	共著	平成24年11月	日本教育心理学会第54回総会発表論文集	子どもの個人差に影響を与えていると考えられる気質が、母親の信念や育児行動とどのような関連を持つのかについて探索的に検討し、エフォートフルコントロールの高い母親が望ましい育児行動を多く示すという結果を得た。 著者：星信子・草薙恵美子・高村仁知・安達真由美・陳省仁・大石正 掲載頁：378 担当部分：研究計画から調査実施、データ分析など全般にわたって参加した。
3．子どもと母親の気質と生活―子どもの気質に関連する諸要因についての予備的検討	共著	平成24年11月	日本教育心理学会第54回総会発表論文集	子どもの気質発達に影響を与えると考えられる様々な要因について幅広く取り上げ、その関連性について探索的に検討し、母親の気質が関連するという結果を得た。 著者：草薙恵美子・星信子・高村仁知・安達真由美・陳省仁・大石正 掲載頁：377 担当部分：主に質問紙調査の実施、分析などを担当した。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） （学会発表） ４．子どもの気質と家庭環境	共著	平成25年3月	日本発達心理学会第24回大会発表論文集	幼稚園と保育所の子どもの気質的際について検討し、両者に差があることを明らかにした。 著者：草薙恵美子・星信子・陳省仁・安達真由美・高村仁知・大石正 掲載頁：192 担当部分：主に質問紙調査の実施、分析などを担当した。
５．子どもの気質と家庭生活	共著	平成25年3月	日本発達心理学会第24回大会発表論文集	子どもの気質的特徴と母親の養育信念との関係について検討し、両者に関係があること、そしてさらに養育者の信念は幼保の違いや家庭の収入と関連することを示唆する結果を得た。 著者:陳省仁・草薙恵美子・星信子、・安達真由美・高村仁知・大石正 掲載頁：193 担当部分：主に養育信念及び家庭経済変数を担当した。
６．Which Influences Japanese Young Children’s Home Environment, Daycare System or Annual Income?（査読付）	共著	平成25年4月	Society for Research in Child Development 2013 Biennial Meeting	幼児のいる日本の家庭環境に家庭の収入と幼保の差が関連しているかどうかを検討し、収入の影響が大きいという結果を得た。 著者：Nobuko Hoshi, Emiko Kusanagi, Mayumi Adachi, Shing-Jen Chen, Tadashi Oishi, Hitoshi Takamura 掲載頁：287 担当部分：研究計画から調査実施、データ分析など全般にわたって参加した。
７．Relations Between Preschool Education and Children’s Temperament in Japan.（査読付）	共著	平成25年4月	Society for Research in Child Development 2013 Biennial Meeting	日本の幼児の気質について、幼稚園と保育所の違いがあるかどうかについて検討し、幼保に違いがあり、保育所の子どものエフォートフルコントロールが高いという結果を得た。 著者：Emiko Kusanagi, Mayumi Adachi, Nobuko Hoshi, Shing-Jen Chen, Tadashi Oishi, Hitoshi Takamura 掲載頁：343 担当部分：主に質問紙調査の実施、分析などを担当した。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） （学会発表） ８．Factors influencing the anxiety of parenthood: views from Japanese mothers with young children （査読付）	共著	平成25年9月	16th European Conference on Developmental Psychology	親としての不安に影響を与える母子の特徴や社会経済的要因について検討を行い、不安の有無には、母親や子どもの否定的な感情や行動の特徴、また年収の低さが影響しているという結果を得た。 著者：Nobuko Hoshi, Emiko Kusanagi, Shing-Jen Chen, Mayumi Adachi, Hitoshi Takamura and Tadashi Oishi 掲載頁：94 担当部分：研究計画から調査実施、データ分析など全般にわたって参加した。
９．Presence of siblings and the development of temperament （査読付）	共著	平成25年9月	16th European Conference on Developmental Psychology	子どもの気質発達における家庭構成員の存在の影響を検討し、多くの家族メンバーと共に生活すること、日本的育児の様式、兄弟の存在等が気質発達に影響を及ぼすという結果を得た。 著者：Emiko Kusanagi, Nobuko Hoshi, Shing-Jen Chen, Mayumi Adachi, Hitoshi Takamura and Tadashi Oishi 掲載頁：97 担当部分：主に質問紙調査の実施、分析などを担当した。
10．Parenting behaviors, activity sharing and maternal beliefs in Japan （査読付）	共著	平成25年9月	16th European Conference on Developmental Psychology	幼児をもつ母親の発達信念、発達期待、育児イメージと養育行動の間の関係について検討し、母親の信念が食事のメンバーや、子どもへの読み聞かせや合唱などの教育行動に関連するという結果を得た。 著者：Shing-Jen Chen, Emiko Kusanagi, Nobuko Hoshi, Mayumi Adachi, Hitoshi Takamura and Tadashi Oishi 掲載頁：97 担当部分：主に質問紙調査の実施、分析などを担当した。
11．乳幼児を対象にした気質研究の現在： 研究史上の流れと今後の展望から考える	共著	平成25年9月	日本心理学会第77回大会発表論文集 公募シンポジウム	主に乳幼児を対象に気質研究を行ってきた国内研究者が自らの研究をわが国における気質研究史上に位置づけ，今後の気質研究の展望を考えるシンポジウムにおいて話題提供を行った。 企画者：水野里恵，草薙恵美子 話題提供者：草薙恵美子，星信子，水野里恵， 指定討論者：森口祐介 掲載頁：SS(29) 担当部分：子どもの気質発達に影響を与える諸要因に関する研究を報告した。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） （学会発表） 12.幼児期の気質発達 －母親妊娠中及び子どもの食事との関連	共著	平成25年9月	日本心理学会第77回大会発表論文集	母親妊娠中及び現在の子どもの食事内容について調査し、気質との関連性について検討し、子どもの気質発達が、母親の妊娠中食品摂取状況及び乳児期栄養、幼児期の食品摂取状況と関連するという結果を得た。 著者名：草薙恵美子、星信子、高村仁知、安達真由美、陳省仁大石正 掲載頁：1048 担当部分：主に質問紙調査の実施、分析などを担当した。
13.幼児の気質の時代変化－1992、2002、2012 年の比較	共著	平成26年3月	日本発達心理学会第25回大会論文集	1992年から10年ごとに国内の幼児を対処に行ってきた気質調査の結果である。その結果、2002年から2012年にかけては殆ど変化が見られないことが明らかとなった。 著者：草薙恵美子、星信子、陳省仁、安達真由美、高村仁知、大石正 掲載頁：124 担当部分：主に2012年調査の実施、分析を担当した。
14.Factors influencing Japanese preschoolers' involvement in musical play at home. （査読付）	共著	平成26年8月	13th International Conference on Music Perception and Cognition.	子どもの音楽遊びへの関かわりは他の遊びタイプの影響を受けること、また発達的及び環境的要因の双方と関係することを示した。家庭での幼児の音楽遊びにおける個人差への決定要因をパス解析により詳しく説明した。 著者：Huo, X. Y., Adachi, M., Kusanagi, E., Hoshi, N., Chen, S., Oishi, T., & Takamura, H. 担当部分：主に質問紙調査の実施、分析などを担当した。
15.母親の気質と子育て	共著	平成26年11月	日本教育心理学会第56回総会	母親の育児行動は，気質的特徴のタイプにより異なることが示され，特に否定的感情の強いタイプの母親は，育児に自信が無く，子どもの社会的かかわりの機会が少なく，自分自身は人とのつきあいを避けるといったあまり望ましくない傾向がみられた。 著者：星信子、草薙恵美子、安達真由美、陳省仁、高村仁知 掲載頁：832 担当部分：研究計画から調査実施、データ分析など全般にわたって参加した。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） （学会発表） 16. 子どもの気質と遊びのタイプ	共著	平成26年11月	日本教育心理学会第56回総会	子どもの気質は遊びの種類と関係し、特にEC発達と音楽遊びが関連することが判明した。「音楽遊び」の因子尺度には歌や踊り、楽器演奏項目が含まれるが、これらの遊びには外的刺激（メロディやテンポ）に合わせる、即ち、自己コントロールする、という側面が含まれる。この様な遊び特性がEC発達を促すのかもしれないが、逆にEC発達の進んだ幼児がこれらの遊びを好んで行っているという可能性も排除できない。 著者：草薙恵美子、星信子、安達真由美、陳省仁、高村仁知 掲載頁：831 担当部分：主に質問紙調査の実施、分析などを担当した。
17. 日本５地域の子どもの毛髪水銀量と魚摂取	共著	平成26年12月	環境ホルモン学会第17回研究発表会	子どもの毛髪水銀濃度には地域差が認められ、他地域に比べて脂の多い魚をより多く摂取していた山梨県の子どもの毛髪水銀濃度は他と比べて高かった。また、毛髪水銀濃度と魚介類摂取頻度の間には有意な関係があり、特に採取した毛髪が長く、測定量が多い場合、その相関値は高かった。さらに、ダイオキシン類摂取推定値の中央値は12.13 pgTEQ/ kg体重/週、水銀摂取推定値の中央値は1.47μg/kg体重/週であった。 著者：草薙恵美子，髙村仁知，星信子，陳省仁，安達真由美，大石正 掲載頁：p-03 担当部分：主に質問紙調査の実施、分析などを担当した。
18. Predictability of the household economic factors on the temperament of Japanese children（査読付）	共著	平成27年9月	17th European Conference on Developmental Psychology	家庭環境及び子どもの通園施設経験のどちらが子どもの気質発達に影響するかを検討した。結果、子どものESは通園施設の、またECは世帯年収が子どもの気質発達に関連することが明らかとなった。否定的情動に関してはこれらの影響は見られなかった。 著者：Nobuko Hoshi, Emiko Kusanagi, Shing-Jen Chen, Mayumi Adachi, & Hitoshi Takamura 掲載頁：367-368 担当部分：研究計画から調査実施、データ分析など全般にわたって参加した。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） （学会発表） 19. Influence of food intake and exposure to heavy metals on the development of temperament in Japanese children （査読付）	共著	平成27年9月	17th European Conference on Developmental Psychology	子どもの毛髪分析により重金属曝露を、また食事調査からダイオキシン曝露を推定し、子どもの気質発達における影響を見た。結果、これらの曝露は子どもの気質発達に影響しないことが明らかとなったが、子どもの簡便な食事習慣等は子どもの気質発達に影響することが判明した。 著者：Emiko Kusanagi, Nobuko Hoshi, Hitoshi Takamura, Shing‐Jen Chen, & Mayumi Adachi 掲載頁：352-353 担当部分：主に質問紙調査の実施、分析などを担当した。
20. 子どもの生育環境と発達－遺伝と環境の新しい視座－	共著	平成28年4月	日本発達心理学会第27回大会	子どもの生育環境と発達について微視的、巨視的、様々な視座からの学際的議論を深めるため、公衆衛生学、行動遺伝学、社会学、それぞれの研究領域の最先端で活躍する研究者が、子どもの発達における遺伝と環境の影響、或いはその交互作用の諸相について議論するシンポジウムにおいて、企画を行った。 企画：草薙恵美子、星信子 司会：安達真由美 話題提供者：安藤寿康、岸玲子、阿部彩 指定討論者：遠藤利彦 掲載頁：AS2 担当部分：全体の企画、及び当日の議論の進行とまとめを一部担当した。
21. 子どもの気質と家庭生活の地域差　その2　－家庭・地域の養育環境及び親の信念について－	共著	平成28年5月	日本発達心理学会第27回大会	家庭の社会経済的状況、またソーシャル・キャピタルには地域差があり、特に中空知において子どもの生育環境としてリスクとなり得るような結果が得られた。 著者：星信子、草薙恵美子、陳省仁、安達真由美、高村仁知 掲載頁：PF-7 担当部分：研究計画から調査実施、データ分析など全般にわたって参加した。
22. 子どもの気質と家庭生活の地域差　その1 －子どもの気質と基本的生活について－	共著	平成28年5月	日本発達心理学会第27回大会	日本5地域の子どもの気質について地域差を検討したが、有意な結果は得られなかった。しかし、家庭生活において、乳児期栄養、授乳期間、入浴や就寝を一緒にする家族メンバー等において地域に違いが見られた。 著者：草薙恵美子、星信子、陳省仁、安達真由美、高村仁知 掲載頁：PF-6 担当部分：主に質問紙調査の実施、分析などを担当した。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） （学会発表） 23. Regional differences in and factors influencing children's play in Japan （査読付）	共著	平成28年7月	31st International Congress of Psychology	目的は、子どもの遊びの地域差と、遊びへの影響要因を探ることである。118名の子どもの遊びについての紙面調査データを1要因ANOVA分析した結果、外遊びのみに地域の主効果が認められた。また、性差のある遊びの性的指向性への金属暴露の影響を階層的回帰分析により検討したところ、重金属暴露の影響は見られなかった。 著者：Emiko Kusanagi, Nobuko Hoshi, Hitoshi Takamura, Shing-jen Chen, Mayumi Adachi 掲載頁：プログラムp.308 担当部分：主に質問紙調査の実施、分析などを担当した。
24. Influence of exposure to harmful metals on the development of temperament in Japanese children （査読付）	共著	平成28年8月	Conference of International Society for Environmental Epidemiology and International Society of Exposure Science - Asia Chapter 2016	CBQ下位尺度と有害金属の間の関連性を検討した。結果、鉛は子どもの気質発達に悪影響を、一方予想とは裏腹に水銀はよい影響を及ぼしていた。これは魚には水銀と同時に高濃度でオメガ3系不飽和脂肪酸が含まれているためではないかと思われる。 著者：Emiko Kusanagi, Hitoshi Takamura, Nobuko Hoshi, Shing-Jen Chen, & Mayumi Adachi 掲載頁：71 担当部分：主に質問紙調査の実施、分析などを担当した。
25. 幼児気質質問紙日本語超短縮版作成の試み	共著	平成30年９月	日本心理学会第82回大会	日本での研究の進展に必要な測定道具として、３つの気質次元を適切に測定するCBQ日本語超短縮版を作成し、さらにCBQ日本語超短縮版の妥当性を確かめる目的で、乳児期からの縦断データを用いて、CBQ日本語超短縮版及び標準版とInfant Behavior Questionnaire-Revised（IBQ-R日本版）及びEarly Childhood Behavior Questionnaire（ECBQ日本版）との関連性についてそれぞれ検討した。 著者：成瀬茉里香、草薙恵美子、星信子、中川敦子、鋤柄増根 掲載頁：2PM-089 担当部分：主に質問紙の作成などを担当した。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） （学会発表） 26.幼児の毛髪数量元素濃度とその影響要因	共著	平成30年12月	環境ホルモン学会第21回研究発表会	幼児の毛髪の微量元素濃度とその影響要因について検討した結果、微量元素への曝露は、元素により影響要因が異なり、Na、AI、K、Fe、Culは子どもの性と、Pbは年齢とMg、Mn、Caは食物摂取頻度と関連していた。AIとSnの曝露厳は水道水であると推定される。子どもの性別は微量元素濃度の重要な影響要因であった。この結果から、バックグラウンドレベルの微量元素曝露の測定での毛髪使用について、ある程度の妥当性が得られたといえる。 著者：草薙恵美子、高村仁知、星信子、陳省仁 掲載頁：98 担当部分：主に質問紙調査の実施、分析などを担当した。
27. Japanese Children’s Temperament from Early to Middle Childhood	共著	2019年3月	Society for Research in Child Development 2019 Biennial Meeting	Temperament in Middle Childhood Questionnaire (TMCQ)の因子構造の妥当性及び、児童期初期から中期の日本の子どもの気質発達の様相を検討した。因子構造においてはLow Intensity Pleasure以外の因子についての妥当性が確認できた。また、児童期前期から中期にかけての子どもの気質は比較的安定的であった。 著者：Emiko Kusanagi, Yoshinobu Takahashi,Nobuko Hoshi, Shing-Jen Chen, Hitoshi Takamura, & Yusuke Moriguchi. 掲載頁：PS-08-208 担当部分：主に質問紙調査の実施、分析などを担当した。
28.幼児期金属暴露の学童期気質発達への影響	共著	2019年9月12日	日本心理学会第83回大会	幼児期子どもの金属暴露の学童期気質発達への影響について縦断的に検討した結果、金属暴露が気質発達に影響を与えることが明らかとなった。特に水銀暴露量は多くの気質尺度に影響していた。また、金属暴露の影響には性差がみられた。 著者：草薙 恵美子、高橋 義信、髙村 仁知、星 信子、森口 佑介、陳 省仁 担当部分：主に質問紙調査の実施、分析などを担当した。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） （学会発表） 29. 幼児期金属暴露と学童期の遊び	共著	2020年9月8日～11月2日（オンライン開催）	日本心理学会第84回大会	幼児期金属暴露量を子どもの毛髪中金属濃度により、学童期遊びを紙面調査により測定した。男女児別に遊び及びTVゲーム頻度と、毛髪中金属の各濃度との間に関連らがあるかどうか検討した結果、女児に関してMn高濃度群は低濃度群よりもゲーム得点、Pb高濃度群は中濃度群よりも遊び得点が低かった。男児の遊び・ゲーム得点に関して有意となる金属はなかった。以上より、金属暴露の女児の遊び傾向への影響が示唆された。 著者：草薙恵美子、高村仁知、星信子、高橋義信、森口佑介、陳省仁 担当部分：主に質問紙調査の実施、分析などを担当した。
30. 金属暴露及び栄養素と前頭葉機能の発達の関連	共著	2021年6月13日（オンライン開催）	日本赤ちゃん学会第21回学術集会	幼児期の金属暴露は，児童期の脳発達とはほとんど関係ないことが示唆された。一方，n-3系脂肪酸の摂取は，認知的柔軟性の課題の成績や課題時の脳活動と関連する可能性がある。 著者：森口 佑介草薙 恵美子・高橋義信・髙村 仁知・星 信子・陳 省仁 担当部分：主に実験室観察の実施、分析などを担当した。
31. Effects of the Home Environment, Exposure to Metals, and Food Nutrition on Temperament of Japanese Children.（査読付）	共著	2021年7月20日（オンライン開催）	The 32th International Congress of Psychology	学童期子どもの気質発達への家庭環境や金属（水銀、アルミ）暴露の影響を検討した。家庭環境は子どもの否定的情動や高潮性・外向性に影響を及ぼしていなかったが、エフォートフル・コントロールには金属暴露よりも家庭の養育環境の影響が大きいことが判明した。 著者：Nobuko Hoshi, Yusuke Moriguchi, Emiko Kusanagi, Hitoshi Takamura and Yoshinobu Takahashi 担当部分：研究計画から調査実施、データ分析など全般にわたって参加した。
32. 子どもが幼児期から学童期にかけての父母の気質の安定性	共著	2021年9月1日～8日（オンライン開催）	日本心理学会第85回大会	幼児期から学童期にかけての子どもの気質の縦断的研究に参加した父母103名の気質の安定性について検討を行なった。4つの気質次元には、それぞれ2時点の間で中程度以上の正の相関があり、個人の特徴は比較的安定的であった。ただし、父母の努力による制御は子どもが幼児期の時よりも学童期の方が高く、高潮性は逆に低くなっていた。 著者：星 信子、草薙 恵美子、森口祐介、高村 仁知 担当部分：研究計画から調査実施、データ分析など全般にわたって参加した。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） （学会発表） 33. 思春期問題行動への学童期気質及び養育行動の影響	共著	2022年9月8日（ハイブリッド開催にて対面発表）	日本心理学会第86回大会	思春期の子どもの問題行動への学童期子どもの気質及び母親の養育行動の影響を検討した。対象者は母親164名（11～15歳；男児84名、女児80名）とその子ども161名（男児82、女児79名）である。学童期の気質は日本語版TMCQにより、養育行動は日本語版HOME-SFにより、問題行動は、母親と子どもによる「子どもの強さと困難さアンケート」（SDQ）への回答により測定した。思春期の子どもの困難さには学童期の養育行動よりも、子どもの気質がより大きな影響を与えており、とりわけその中でもECの影響力が強く、また、思春期の子どもは、親が考えているよりもより困難さを感じていることが示唆された。 著者：草薙 恵美子、高橋 義信、星 信子、森口 佑介、髙村 仁知 担当部分：研究計画から調査実施、データ分析など全般にわたって参加した。
34. 胎・乳幼児期金属暴露と子どもの発達	共著	2023年3月3日	日本発達心理学会第34回大会	幼児期から学童期にかけての縦断研究により、子どもの気質や心の理論、さらにワーキングメモリや運動機能発達への複数の金属暴露の影響を検討した。有害金属であるCdは子どもの心の理論発達に悪影響を及ぼす可能性、またAlは下位尺度に衝動性を含むES発達を強める可能性のあること、一方必須金属であるZnは子どものEC 発達を促す可能性が示唆された。 著者：草薙 恵美子、中村光一、八若保孝、鈴木翔斗、武田希美、星信子、高橋 義信、森口 佑介 担当部分：主に質問紙調査の実施、分析などを担当した。

著書,学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） （学会発表） 35. Level of Metals in Deciduous Teeth and the Development of Children’s Temperament	共著	2023年3月25日	Society for Research in Child Development 2023 Biennial Meeting	目的は子どもの胎児期から乳児期の金属暴露量を脱落乳歯エナメル質中金属濃度をICP-MS及びICP-AESにより測定し、幼児期並びに学童期子どもの気質発達との関連を検討することである。子どもの気質については幼児期はCBQ、学童期はTMCQにより測定した。関連性にはある一定のパターンが見られ、アルミニウム、ストロンチウム、カドミウム、鉛等の毒性金属は外向性・高潮性因子尺度又はその下位尺度と正の関係、エフォートフル・コントロール因子尺度又はその下位尺度とアルミニウム以外の毒性元素との間に負の関係が見られた。一方マグネシウム以外の必須元素は外向性・高潮性因子尺度又はその下位尺度と負の関係、エフォートフル・コントロール又はその下位尺度とは正の関係があった。 著者： Emiko Kusanagi, Koichi Nakamura, Yasutaka Yawaka, Shoto Suzuki, Nozomi Takeda, Nobuko Hoshi, Yoshinobu Takahashi, Shing-Jen Chen, and Yusuke Moriguchi 担当部分：主に質問紙調査の実施、分析などを担当した。
36. 子どもの乳歯エナメル質中金属濃度と毛髪中金属濃度の関係	共著	2023年5月30日	第2回環境化学物質3学会合同大会	胎・乳児期金属暴露量を脱落乳歯のエナメル質中，幼児期，学童期の金属暴露量を毛髪中金属量により測定し，乳歯中及び毛髪中金属濃度の関連，及び変化等について検討した。乳歯エナメル質中金属と毛髪中金属量はAlを除くと有意な関連は見られなかったが、幼児期と学童期の毛髪中の複数の金属量は中程度の安定性を示した。 著者：草薙恵美子，中村光一，八若保孝，鈴木翔斗，武田希美，髙村仁知，高橋義信，星信子，森口佑介 担当部分：主に質問紙調査の実施、分析などを担当した。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） （学会発表） 37. 思春期までの子どもの気質に関する長期縦断研究 （１）　思春期子どもの気質及び問題行動と胎・乳児期から学童期金属暴露との関係	共著	2024年3月8日	日本発達心理学会第35回大会	2012年からの縦断研究で，幼児期47名，学童期55名の毛髪及び脱落乳歯25名の複数の金属量を測定し，思春期の気質及び問題行動発達との関連について検討した。暴露時期により金属暴露の影響が異なること，Cdが子どものEC発達を抑制する可能性，Al，Cd及びSb暴露量が高い子どもは後の困難さが高い傾向が示された。一方，必須金属Feは問題行動を低減する可能性が示唆された。 著者：草薙恵美子，星信子，高橋義信，中村光一，八若保孝，鈴木翔斗，武田希美，髙村仁知，森口佑介 担当部分：主に質問紙調査の実施、分析などを担当した。
38. 思春期までの子どもの気質に関する長期縦断研究 （２）幼児期から思春期までの気質の安定性	共著	2024年3月8日	日本発達心理学会第35回大会	2012年に全国5ヶ所の幼稚園・保育所を通じて募集した協力家庭の追跡調査により気質の安定性を検討した。幼児期935家庭、学童期271家庭、思春期171家庭が紙面調査に参加した。各気質因子の相関係数は、隣接する2時期の相関は中程度であり、幼児期から思春期までについては、エフォートフル・コントロールは.44であったが、高潮性は.38であり、高潮性は変動しやすいことが示唆された。また、下位尺度間の相関係数も気質因子尺度の相関と概ね同様の傾向であった。 著者：星信子，草薙恵美子，高橋義信，森口佑介 担当部分：研究計画から調査実施、データ分析など全般にわたって参加した。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（その他） （学会発表） 39. Longitudinal Effects of the Home Environment on the Temperament of Japanese. （査読付）	共著	2024年7月	the 33rd International Congress of Psychology	幼児期から青年期までの縦断的研究の青年期調査に協力した171家族を対象として、幼児期、学齢期、思春期における家庭環境が日本の青年の気質の発達に及ぼす影響を縦断的に検討した。３つの因子尺度得点を従属変数とした階層的重回帰分析を行った結果、エフォートフル・コントロールは全ての時期の、親和性は幼少期・青年期の家庭環境の影響を受けていた。しかし、高潮性との有意な関係は認められなかったことから、家庭環境は子どもの気質の発達に影響を与えているが、その影響は気質次元により異なることが明らかになった。 著者：Nobuko Hoshi, Emiko Kusanagi, Yusuke Moriguchi, and Yoshinobu Takahashi 担当部分：研究計画から調査実施、データ分析など全般にわたって参加した。
40. The longitudinal relationships of metal exposures and nutrition with adolescent development （査読付）	共著	2024年7月	the 33rd International Congress of Psychology	幼児期から青年期までの複数の金属への曝露と栄養摂取を縦断的に測定し、それらと青年期の気質、困難、作業記憶、及び運動発達との関係を検討した。その結果、一部の有毒金属への曝露がエフォートフル・コントロールの発達に悪影響を及ぼし、困難が増大する可能性に加え、栄養摂取がエフォートフル・コントロールの発達を促進し、困難を抑制する可能性が示唆された。さらに、作業記憶と運動能力の発達は、気質や困難よりも金属への曝露や栄養摂取の影響を受ける可能性が低いことも明らかになった。 著者：Emiko Kusanagi, Koichi Nakamura, Yasutaka Yawaka, Nozomi Takeda, Nobuko Hoshi, Yoshinobu Takahashi, Hitoshi Takamura, and Yusuke Moriguchi 担当部分：主に質問紙調査の実施、分析などを担当した。